駒澤大学禅文化歴史博物館企画展

頂相 Chin Zō

～禅僧の肖像画～

背景・題字「頂相」：道元禅師真筆『正法眼蔵嗣書』より／当館蔵
左　：真厳道空頂相　台英是星識語／絹本着色／16 世紀／当館蔵
中央：密雲円悟頂相　喜多元規画・隠元隆琦賛／絹本着色／17 世紀／当館蔵
右　：洞家頂相　五雲道鳳賛／紙本着色／寛政 7 年 (1795) ／本学図書館蔵

第 37 回禅博セミナー

一休像の変容～その頂相をめぐって～

講師　当館館長　飯塚大展（本学仏教学部教授）

平成29年6月29日（木）17時～18時半

会場　駒澤大学中央講堂

定員　百名（※申込不要・参加費不要）

2017年
5月15日（月）～7月31日（月）

【開館時間】10時～16時30分／入館無料
【休　館　日】土（第3土曜日を除く）・日・祝日
【臨時開館】7月16日（日）・17日（月・祝）
※オープンキャンパス開催のため
【後　　援】世田谷区教育委員会

駒澤大学禅文化歴史博物館

The Museum of Zen Culture and History,Komazawa Universty

〒154-8525
東京都世田谷区駒沢 1-23-1
TEL (03)3418-9610
FAX(03)3418-9611

http://www.komazawa-u.ac.jp/facilities/museum/

Chin Zō

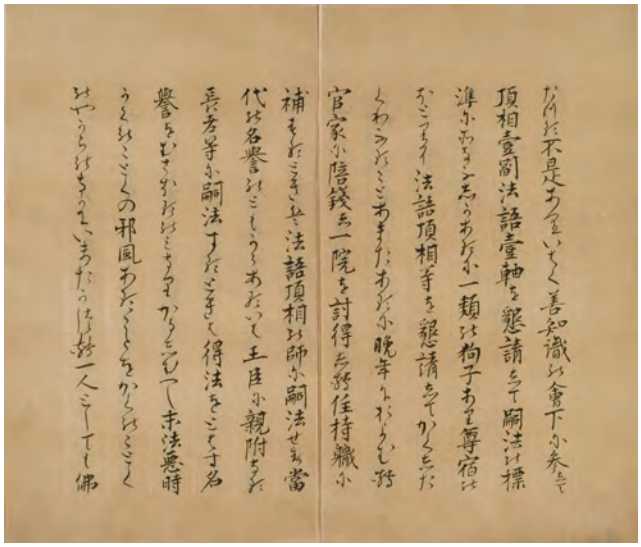
頂相～禅僧の肖像画～

「頂相（ちんぞう）」（「ちんそう」とも）とは、元来、肉髻（にくけい）（仏の頭頂の肉が盛り上がっている部分）のことを指し、「頂上の尊い相」という意味から、禅僧の肖像画を指すようになりました。

禅宗では、師の肖像を弟子に与えることで、仏法相伝の証とする習慣が生まれ、後には祖師の遺徳を讃えたり、敬愛の念を示すものとして頂相が描かれました。

今回、当館ならびに駒澤大学図書館に所蔵される、曹洞宗・臨済宗・黄檗宗などさまざまな禅僧の頂相 17 点を一堂に公開します。

頂相では、絵画の技巧的な面よりも、描かれた像主の人格的・精神的な面がきわめて重視され、また像主の禅機（禅における悟りの境地からほとばしり出る働き、修行者に対する独特の鋭い言動）が反映されます。目に見える「すがた」「かたち」よりも、禅僧の内面をいかに表現しうるか、これが頂相の真髄といえるでしょう。



道元禅師真筆『正法眼蔵』嗣書の巻／寛元元年（1243）／当館蔵

曹洞宗の開祖道元禅師（1200-1253）が「嗣書」（仏法相伝の証として師から授かる系譜）についてその重要性を説いたもの。この中で道元禅師は、近年では嗣書を授からずに、頂相と法語のみを手に入れて相伝の証とする弊風を批判し、頂相に対する自らの見解を述べている。

真巌道空頂相　台英是星識語／一六世紀／当館蔵

曹洞宗の真巌道空（1374-1449）の頂相。原本は兵火で焼失したため、16 世紀中頃に再作成されたもの。真巌の法嗣川僧慧済の賛（写）が記されている。中世頂相の優品のひとつ。
絹本着色　縦 120.6× 横 56.7 ㎝

清巌宗渭頂相　自賛／慶安四年（一六四九）／当館蔵

臨済宗の清巌宗渭（1588-1661）の自賛の頂相。
紙本着色　縦 57.4× 横 20.5 ㎝

密雲円悟頂相　喜多元規画・隠元隆琦賛／一七世紀／当館蔵

黄檗宗の開祖隠元隆琦（1592-1673）が法祖父密雲円悟（1566-1642）の頂相に着賛したもの。正面向きの黄檗様の頂相で、黄檗画家喜多元規による黄檗肖像画の逸品。
絹本着色　縦 118.8× 横 50.8 ㎝

※展示資料は予告なく変更となる場合がありますがご了承願います。

即非如一頂相　喜多元規画・千呆性佼賛／天和三年（一六八三）／当館蔵

黄檗宗の即非如一（1616-1671）の頂相。即非は隠元隆琦の法嗣。賛は即非の法嗣千呆性佼（1636-1705）で、画者は黄檗画家喜多元規。
紙本着色　縦 115.8× 横 45.1 ㎝

黄檗系祖師像　木庵性瑫賛／一七世紀／本学図書館蔵

像主は不明だが、隠元隆琦の法嗣木庵性瑫（1611-1684）の賛なので、黄檗の祖師像と思われる。
絹本着色　縦 108.6× 横 34.3 ㎝

独庵玄光頂相　自賛／元禄五年（一六九二）／当館蔵

曹洞宗の独庵玄光（1630-1698）の自賛頂相。独庵は長崎に渡来した道者超元に参じ、明朝禅にいち早く触れた。黄檗様の影響を受けた正面向きの像である。
紙本着色　縦 124.0× 横 56.3 ㎝

月舟宗胡頂相　智燈照玄賛／一七～一八世紀／当館蔵

曹洞宗の月舟宗胡（1618-1696）の頂相。賛は月舟に師事した智燈照玄（1665-1739）。月舟は隠元隆琦に参じ、黄檗宗の影響を受けている。本像も黄檗様となっている。
絹本着色　縦 70.5× 横 34.5 ㎝

道正大庵主像　藤原隆守識語／元禄一一年（一六九八）／本学図書館蔵

道元の入宋に随伴したという伝説を持つ木下道正（1171?-1248）の像。曹洞宗と関係が深い初代道正庵主の像で、道正庵 21 代目の藤原隆守（貞順）による識語がある。
紙本着色　縦 178.9× 横 94.7 ㎝

雲門即道頂相　自賛／一八世紀／本学図書館蔵

曹洞宗の雲門即道（1691-1765）の自賛の頂相。雲門は独庵玄光開創の大道寺の住持を務めたことがあり、その影響からか、本頂相は黄檗様の正面向きの像となっている。
絹本着色　縦 111.0× 横 51.7 ㎝

大錯玄機頂相　恒山画龍賛／一八世紀／本学図書館蔵

曹洞宗の大錯玄機（?-1769）の頂相。賛は曹洞宗の恒山画龍（1718-1792）。大錯は雲門即道の法嗣で、本頂相も雲門頂相と同様に黄檗様となっている。
絹本着色　縦 98.7× 横 36.1 ㎝

卍海宗珊頂相　泰岳隱禅賛／一八世紀／当館蔵

曹洞宗の卍海宗珊（1706-1767）の頂相。賛は卍海の法嗣泰禅穏岳（?-1798）。
絹本着色　縦 105.3× 横 33.5 cm

仁峰泰麟頂相　物了不遷賛／安永九年（一七八〇）頃／当館蔵

曹洞宗の仁峰泰麟（?-1785）の頂相。賛は曹洞宗の物了不遷（?-1791）。
紙本着色　縦 97.4× 横 34.6 cm

日山海東頂相　自賛／天明元年（一七八一）／当館蔵

曹洞宗の日山海東（1720-1807）の自賛頂相。正面向きの黄檗様の頂相。
絹本着色　縦 95.2× 横 35.3 cm

洞家頂相　五雲道鳳賛／寛政七年（一七九五）／本学図書館蔵

像主は不明だが曹洞宗の僧侶と思われる。賛は曹洞宗の五雲道鳳（?-1812）。
紙本着色　縦 99.0× 横 35.4 cm

隱山惟琰頂相　自賛／文化六年（一八〇九）／当館蔵

臨済宗の隱山惟琰（1751-1814）の自賛頂相。
絹本着色　縦 113.3× 横 49.4 cm

鉄額泥牛頂相／一九世紀／本学図書館蔵

曹洞宗の鉄額泥牛（?-1821）の頂相。
紙本着色　縦 85.2× 横 26.7 cm

英山雄頂相　無住本住賛／文政七年（一八二四）／本学図書館蔵

像主の英山雄は曹洞宗の僧侶と思われるが未詳。賛は曹洞宗の無住本住（?-1841）。
紙本着色　縦 117.2× 横 28.7 cm